

浜松市西部「佐鳴湖」^{さなるこ}周辺での淡水ガメ生息調査

戸田三津夫（静岡大 / 昆虫食倶楽部）・夏目恵介・小林芽里（昆虫食倶楽部）

Assessing of abundance of freshwater turtles at lake SANARU basin located at western part of Hamamatsu city

By Mitsuo TODA, Keisuke NATSUME and Meri KOBAYASHI

【活動の紹介】

浜松市の昆虫食倶楽部 (<http://torutabe.hamazo.tv/>) では、生物を“とって、料理して、食べる”『とって食べるイベント』を展開しています。この活動は、生物とふれあい、食を通して自然界や生態系、人間としての存在をふりかえることを狙っています。外来生物ウシガエル、アメリカザリガニ、ブラックバス、ブルーギルもターゲットにしており、ミシシippアカミミガメも捕獲して食べました。2017年度は、浜松市西部の汽水湖「佐鳴湖」周辺で活動拡大し、生息調査と駆除をかねた捕獲調査を展開して274個体を捕りました。

【調査結果】

捕獲調査は5月から9月にかけて月一回、魚のあら入カニカゴ10個、日光浴トラップ1個にて行ないました。捕獲したミシシippアカミミガメの平均甲長は雄162mm、雌188mmでした。ミシシippアカミミガメの数は、5月（雄10匹、雌17匹）、6月（雄29匹、雌50匹）、7月（雄21匹、雌53匹）、8月（雄23匹、雌29匹）、9月（雄9匹、雌33匹）、他種カメは、クサガメ13匹（再捕獲含むのべ数）、スッポン4匹でした。

【考察】

佐鳴湖周辺では、上流河川にニホンイシガメが見られるものの、湖周辺では94%以上がミシシippアカミミガメでした。捕獲数にばらつきはありますが、5回の捕獲で数やサイズの減衰は見られず、まだまだ捕獲圧は大きくない印象を持ちました。駆除効果をあげるにはどの程度捕獲すべきかを検証するためにもさらに捕獲を進めてゆく必要があると思われます。

【捕獲個体の利用と今後の展開】

捕獲個体は、試食、解剖、楽器製作に供しました。淡水ガメ情報交換会会場でもカメカレーが販売されており、肉質は悪くありませんが、採れ高と労力面で効率が悪い食材です。いくつかの高校で解剖実習を行ないましたが、いろいろ長所があり、ウシガエルが事実上使えない現状においては有望な有効利用用途であるといえます。会場でお見せしたポコポコと良い音の鳴るカメ楽器（写真参照）も面白い用途ですが加工にかなり手間がかかるのが難点です。とはいえ、すべてを利用することはできず、大部分は浜松市と協働して廃棄処分としました。2018年度はさらに捕獲の規模と頻度を拡大して利用法の探索を行なう予定です。



ミシシippアカミミガメの甲羅で作成したカメ楽器